

こんしゅう あ の
今週のことば「**荒れ野**」

せいしよ ふくいんしよ
《聖書》マタイによる福音書 3:1-12

あ の
荒れ野

あ の かみ しゅくふく
「荒れ野」は、神から祝福されてない
とち こと さ みず
土地の事を指しています。水がほとんど
くさき すく す こと ふ
なく、草木が少なく、そこに住む事は不
かのう ちか あくれい けもの
可能に近いのです。そこには悪霊や獣が
す ばしよ かんが
住んでいて、のろわれた場所と考えられ
ていました。

せいしよ きゅうさいしてき み
ところが、聖書における救済史的な見
かた しゅくふく ばしよ
方によると、そこは祝福された場所とな
ります。イスラエルの民はエジプトを脱
しゅつ あと ねんかん あ の
出した後、40年間荒れ野をさまよいま
した。この時期を、後から振り返って見
ぬぐ としき かんが
て、恵みの時と考えるようになったので
す。つまり、荒れ野では神がいつもとも
あ の かみ
にいて、イスラエルの民を生かしていた
たみ い
と考えました。逆に、恵まれた土地に入
かんが ぎやく ぬぐ とち はい
ってしまうと、イスラエルの民は神を忘
たみ かみ わす
れてしまい、神の怒りを招いてしまいま
かみ いか まね
した。

いみ あ の かみ であ
こうした意味で、荒れ野は神との出会
ば せいしよ ひょうげん い ぬぐ
いの場であり、聖書の表現で言えば、恵
ち
みの地となります。

せん れい しや あ の
洗礼者 ヨハネと荒れ野

じだい
イエスの時代、クムランにはエッセネ
は
派のグループがいました。このグループ
ぎ きょうしよ し どうしや したが
は、義の教師と呼ばれる指導者に従い、
じぶん ひかり こ かんが てきたいしや
自分たちを「光の子」と考え、敵対者た
ちを「闇の子」と呼んでいました。そし
やみ こ よ
て、いつの日か神のメシアが敵対者に対
ひ かみ てきたいしや たい
して、人々を偉大な勝利に導くと期待し
ひとびと いたい しゅうり みちび きたい
て、「闇の子」が住むエルサレムの都か
やみ こ す みやこ
ら離れ、荒れ野で「光の子」の生活を営
はな あ の ひかり こ せいかつ いたな
んでいました。

たい せんれいしや あ の
これに対して、洗礼者ヨハネは荒れ野
とうり かんが みと
への逃避という考えは認めていませんで
した。彼は荒れ野で教えを宣べ伝えまし
かれ あ の おし の つた
たが、かつての恵みの時代を思い起こさ
ぬぐ じだい おも お
せるためでした。きたるべきメシアを迎
む
えるために悔い改めの洗礼を受ける場所
く あらた せんれい う ばしよ
なのです。

たいこうせつだい しゅじつ ねん たきの
待降節第2主日A年（滝野）